1,200名の生徒には、1,200通りの進路がある

静岡県立 浜松北高等学校

明治27年（1894年）に創立し、120年余りの歴史をもつ浜松北高等学校。学業はもちろん、ボートや陸上といった部活動、さらには模擬裁判選手権といった校外のプロジェクトにも生徒たちは積極的に参加し、好成績を収めています。これらは、「生徒の自主独立」をめざす教育から生まれたもの。進路指導では、幅広い視野から将来を自ら選択するためのツールとして夢ナビを活用しています。

自主独立の精神に基づき、自ら考え、行動する

髙林：教育でもっとも意識しているのは、「自主独立」です。進学校でありながらも運動会や学校祭といった行事が多く、部活動も盛んで好成績を収めています。教師が多くを指示することなく、生徒が自主的に参加する環境があります。自ら行動することで得られる喜びや達成感、自信につなげてほしいと考えています。

西川：その実現には、生徒と教員との距離感が重要です。最近は、背中を押してほしいと思っている生徒が増えていると感じています。だから、生徒が動きやすいように少しだけ手を差し伸べる。でも、決して世話を焼かない。そして、生徒が自ら動き出すまで待つ。つい手を出したくなりますが、そこは我慢して待つんです。こうした指導の差が出ないように、教員間でしっかりコミュニケーションを形成し、情報共有もしています。

いろんな経験から、そして失敗をして学んでほしいんです。例えば運動会のデコレーションが決まらない、人間関係がうまくいかないといったこともあります。でも、自ら行動するからこそ、課題を解決して次に生かそうとする。その中に成長があると考えているのです。

髙林：本校では、授業時間は最低ラインの週31単位。7時間授業は週1回、朝課外も1～2年次のみ実施。できるだけ時間を拘束せず、自分の時間は自分で考えて有効に使うよう指導しています。

その影響もあってか、学校外の活動に参加する生徒が多いんです。理系促進をめざした「浜松トップガン」や、医学部志望の高校生を対象にした「こころざしセミナー」といった活動に多数参加しています。今年は、高校生模擬裁判選手権の関東大会にて3年ぶり2回目の優勝を果たしています。ほかに、名古屋大学が「グローバルサイエンスキャンパス」事業として行う「名大MIRAI GSC」に参加して最終選考を突破し、ドイツまで行った生徒も数名います。これらも、生徒が自主的に参加して手にしている成果なのです。

学問への視点を得た上で、文理選択に臨む

髙林：進路指導では、全校1200名の生徒には、1200通りの進路があるという姿勢で取り組んでいます。特定のバイアスをかけることなく、本人の興味関心や適性を考慮しつつ指導しています。ただ近年になって、3年の段階で進路が決められない生徒が何人かいる状態が続いていました。その対策として、本年度から1年次の文理選択の参考にしてもらおうと、夢ナビプログラム・夢ナビ講義動画サービスの利用をスタートしました。

西川：夏休みの課題として、夢ナビ講義動画を2本観てレポートを書くよう宿題を出したんです。1年生400名に対して再生回数は2300回もありました。女子が7～8回、男子が3～4回の動画を観ています。レポートも素晴らしい内容が多かったですね。例えば、自分の好きな「鉄道」をキーワードに検索した生徒は、工学、経済学、都市工学にまで関心が広がっています。医学薬学や看護学をめざす生徒も多いのですが、医療系だけでなく、経営学などに視野を広げていることがわかります。

こうした指導は、教員では非常に難しい。進路指導で生徒から、「鉄道」と言われても、「それは趣味じゃないか」とするか、せいぜい工学系を示唆する程度でしょう。夢ナビを利用することで、予想しなかった学問まで、本人が自然に視野を広げることができます。たとえ最終的に「鉄道は趣味にする」としてもいいんです。本人が「多様な考察をした結果、この選択をした」という経緯を得ることが重要です。

まずは、たくさんの選択肢を得ることが1年生の目的。学問への視点を得た上で、文理選択に臨めるようにしています。

髙林：本校では、特別な大学入試改革の対策を行なっているわけではありませんが、夢ナビ講義動画の感想を書いたレポートを蓄積することで、ポートフォリオになり得ると考えています。また、各大学のHPでは、どこにどんな情報があるのか見つけにくい、比較しにくいという点があります。でも、夢ナビは1つのサイトに関連しながら存在していて、興味関心から検索しやすいことも利点であると感じました。

時代の変化の中だからこそ、生徒の成長を見守る姿勢を大切にしたい

西川：今、子どもも大人も結果を求めたがる傾向が強くなっています。「将来の道＝仕事」と捉えて大学選択をしがちです。医師や看護師にしても、多様な学問のつながりがあります。直結的な選択をする前に、きちんと知った上で悩む過程を経るからこそ、初めて自分で選択できるようになるんです。夢ナビはその足がかりになると感じています。

髙林：本校は進学校ですが、音楽や美容、お菓子、漫画家といった専門的分野を希望する生徒もいます。資格取得を目的に進路選択をする人も多いでしょう。でも、大学には多様な学びがあります。大学以外の進路を希望する生徒にも、多様な学問の世界を知ってほしいんです。大学での学びで未来が広がるかもしれない。その可能性に触れてほしいと願っています。

西川：保護者が生徒の進路を決めるケースも年々増えています。保護者会を開催しながら、保護者と一緒になって生徒の成長や選択を見守る体制づくりも必要だと感じています。時代の変化にも臨機応変に対応しつつ、生徒一人ひとりの実りある未来へつなげていきたいですね。

夢ナビライブ講義動画サービスの活用

文理選択 × 学問研究

- 文系・理系それぞれの学問の視点を得た上で文理選択に臨む。
- 関心ワード検索で、予想しなかった学問にまで自然に視野を広げることができる。